

【別冊】

# 令和2年長崎市観光統計

【確報版】

長 崎 市

・観光客数

長崎市への観光客数は、長崎市が地理的に西の端に位置することに鑑み、長崎市を通過して他都市へ移動する者が少ないと推測し、交通機関別の入込客数に基づき作成している。

長崎市への入込交通機関として、鉄道、自動車、船舶及び長崎空港に到着する航空機を加え、各交通機関別の入込客数を基に、月ごとの観光客割合を考慮して推計している。

ただし、令和2年における観光客割合は新型コロナウイルス感染症の影響を加味して推計している。

・宿泊客数・日帰り客数

宿泊客数は市内主要宿泊施設における宿泊客数実績の前年比伸び率を基に推計しており、日帰り客数については全体の観光客数から宿泊客数を減じて算出している。

ただし、令和2年における宿泊数および日帰り客数は新型コロナウイルス感染症の影響を加味して推計している。

・個人客数・団体客数(一般・学生)

団体客数(一般・学生)は市内主要観光施設における団体客数(一般・学生)の前年比伸び率を基に推計しており、個人客数については全体の観光客数から団体客数を減じて算出している。

・外国人延べ宿泊客数(国・地域別)

市内宿泊施設における外国人宿泊客数実績に基づき推計している。

・MICE統計(MICE件数・MICE参加人員)

一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会において、MICE受入施設への聞き取り調査等に基づき算出している。

・観光消費額・経済波及効果

一般観光客の観光消費額は、観光動向調査により算出した宿泊・日帰り別／一般・学生別の1人当たり観光消費単価を3か年平均して、宿泊・日帰り別／一般・学生別の観光客数に乗じて算出している。

学生観光客の観光消費額は、「教育旅行年報」(日本修学旅行協会発行)における調査データを元に宿泊・日帰り別の観光消費単価を設定し、宿泊・日帰り別の観光客数に乗じて算出している。

## 目 次

1	令和2年の観光動向	1
2	観光統計総括表	5
3	観光客数・観光消費額の推移	6
4	月別観光客数	8
5	宿泊客・日帰り客の推移	9
6	個人客・団体客の推移	10
7	交通機関別観光客数の推移	11
8	クルーズ客船入港隻数及び乗客・乗務員数	12
9	外国人延べ宿泊者数の推移	14
10	国・地域別外国人延べ宿泊者数	15
11	MICE統計	17
12	経済波及効果	21
— 参考資料 —		
1	観光客数の推移	23
2	主要観光施設の入場者数	24
3	主要イベントの集客数及び経済波及効果	24
4	宿泊施設の状況	25

# 1 令和2年の観光動向

## (1) 全国の観光動向

<b>日本人国内旅行消費額</b>			
<b>9兆9,738億円</b>	前年比54.5%減	(11兆9,574億円減)	
① 宿泊旅行	7兆7,723億円	前年比54.7%減	(9兆3,837億円減)
② 日帰り旅行	2兆2,015億円	前年比53.9%減	(2兆5,737億円減)
<b>日本人国内延べ旅行者数</b>			
<b>2億9,341万人</b>	前年比50.0%減	(2億9,369万人減)	
① 宿泊旅行	1億6,070万人	前年比48.4%減	(1億5,092万人減)
② 日帰り旅行	1億3,271万人	前年比51.8%減	(1億4,277万人減)
<b>日本人国内旅行1人あたり旅行単価</b>			
<b>33,993円</b>	前年比9.0%減	(3,362円減)	
① 宿泊旅行	48,365円	前年比12.2%減	(6,689円減)
② 日帰り旅行	16,589円	前年比4.3%減	(745円減)

日本人の国内旅行消費額は、前年比54.5%減(11兆9,574億円減)の9兆9,738億円であった。日本人の国内延べ旅行者数は、宿泊旅行が前年比48.4%減(1億5,092万人減)の1億6,070万人、日帰り旅行が前年比51.8%減(1億4,277万人減)の1億3,271万人で、全体として前年比50.0%減(2億9,369万人減)の2億9,341万人となり、日本人国内旅行の1人1回当たり旅行単価は前年比9.0%減(3,362円減)の33,993円となった。

(出典)観光庁「旅行・観光消費動向調査」2020年年間値(確報)

### 【参考】

・台風発生数等

	令和2年	令和元年	平年値
台風発生数	23	29	25.1
台風上陸数	0	5	3.0
全国接近数	7	15	11.7
九州北部接近数	3	5	3.8

(出典)気象庁HP「台風の統計資料」

### 訪日外客数

411万5,900人 前年比87.1%減(約2,777万人減)

令和2年に日本を訪れた外国人(訪日外客数)は、前年比87.1%減(約2,777万人減)の411万5,900人と激減した。これは、1月下旬以降の新型コロナウイルス感染症の拡大により、2月以降順次水際対策が強化されたことによるものである。

なお、7月以降は国際的な人の往来再開に向けた措置が段階的に進められ、ビジネス目的の入国が限定的ながら再開されたが、観光目的での入国は現在まで認められていない。

(出典)日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数(2020年12月推計値)」

### 外国人延べ宿泊者数

2,034万5,180人泊 前年比82.4%減(約9,531万人泊減)

外国人延べ宿泊者数は、前年比82.4%減(約9,531万人泊減)の2,034万5,180人と、調査を開始した平成19年以降過去最低となった。

また、国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数は、第1位が中国(約416万人泊、シェア26.2%)、第2位以下は台湾(約219万人泊、シェア13.8%)、アメリカ(約132万人泊、シェア8.3%)、香港(約119万人泊、シェア7.5%)、韓国(約87万人泊、シェア5.5%)と続き、上位5か国・地域で全体の約61.3%を占める。

※国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数は、従業者数10人以上の施設に対する調査から作成されており、全体で1,550万4,160人泊となっている。

(出典)観光庁「宿泊旅行統計調査(令和2年年間値(確定値))」

### 訪日外国人旅行消費額

7,446億円 前年比84.5%減(4兆689億円減)

### 訪日外国人旅行者1人当たり旅行支出

18万5,413円 前年比17.0%増(26,882円増)

訪日外国人の旅行消費額は前年比84.5%減(4兆689億円減)の7,446億円と大幅に減少したが、1人当たりの旅行支出は前年比17.0%増(26,882円増)の18万5,413円と増加した。

国籍・地域別の旅行消費額では、中国が最も高く(2,536億円、シェア34.1%)、次いで台湾(1,084億円、シェア14.6%)、香港(576億円、シェア7.7%)、米国(456億円、シェア6.1%)、韓国(429億円、シェア5.8%)の順となっており、上位5か国・地域で全体の68.2%を占める。

1人当たり旅行支出は、ベトナムが最も高く(26万3千円)、次いで中国(25万7千円)、オーストラリア(23万9千円)の順で高い。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、観光庁が例年実施している「訪日外国人消費動向調査」は1-3月期のみ実施し、4-6月期、7-9月期、10-12月期が中止となったため、2020年訪日外国人の旅行消費額は例年と異なる推計となっている。

(出典)観光庁「2020年の訪日外国人旅行消費額(試算値)」

(2) 長崎市の観光動向

観光客数				
256万600人	前年比63.0%減	(435万7,200人減)		
① 宿泊客数	116万人	前年比	57.1%減 (154万5,200人減)	
日帰り客数	140万600人	前年比	66.8%減 (281万2,000人減)	
② 個人客数	221万500人	前年比	64.3%減 (398万700人減)	
団体客数	35万100人	前年比	51.8%減 (37万6,500人減)	
〔一般団体客数	22万4,500人	前年比	50.9%減 (23万2,700人減)	
〔学生団体客数(修学旅行生)	12万5,600人	前年比	53.4%減 (14万3,800人減)	
外国人延べ宿泊客数				
3万7,840人泊	前年比88.3%減	(28万5,466人泊減)		
クルーズ客船入港数、乗客・乗務員数				
入港数	10隻	前年比	94.5%減 (173隻減)	
乗客・乗務員数	4万5,349人	前年比	93.8%減 (68万7,189人減)	
国内クルーズ船	入港数	0隻	前年比100%減 (4隻減)	
	乗客・乗務員数	0人	前年比100%減 (3,272人減)	
	国際クルーズ船	入港数	10隻	前年比94.4%減 (169隻減)
	乗客・乗務員数	4万5,349人	前年比93.8%減 (68万3,917人減)	

観光消費額			
610億6,605万円	前年比	59.1%減	(約881億円減)
経済波及効果(長崎県内)			
890億円	前年比	58.0%減	(約1,227億円減)
観光客1人あたり市内観光消費額			
平均	23,848円	前年比	10.6%増 (2,282円増)
宿泊客	35,466円	前年比	11.7%増 (3,711円増)
日帰り客	14,226円	前年比	5.3%減 (797円減)

令和2年の長崎市の観光客数は前年比63.0%減(435万7,200人減)の256万600人で、過去11番目に少ない観光客数となり、昭和42年以来の300万人を下回る結果となった。

このうち日帰り客数は前年比66.8%減(281万2,000人減)の140万600人、宿泊客数は前年比57.1%減(154万5,200人減)の116万人となった。

また、旅行形態別にみると、個人客数が前年比64.3%減(398万700人減)の221万500人、団体客数が前年比51.8%減(37万6,500人減)の35万100人となった。

外国人延べ宿泊客数については、前年比88.3%減(28万5,466人泊減)の3万7,840人泊となり、前年を大幅に下回った。国・地域別に見ると、上位3つの国・地域は中国、韓国、香港であり、

これらの占有率は約41.6%で、前年(約47%)から減少したものの、アジア地域で全体の約67%を占めている。

令和2年の観光消費額は、前年比約59.1%減(881億円減)の610億6,605万円で前年を下回った。また、長崎県内への経済波及効果については、前年比58.0%減(1,227億円減)の890億円となった。

以上の観光動向に影響を与えた要因を以下のとおり分析した。

#### 【減の要因】

##### ■ 新型コロナウイルス感染症の世界的流行

令和元年12月に中国湖北省武漢市にて新型コロナウイルス感染症が確認されて以来、中国を中心に感染が国際的に拡大をみせ、わが国においても令和2年2月より外国からの入国に対する上陸拒否措置の開始や同年4月上旬から5月下旬までの緊急事態宣言の発出等に伴う人流の抑制、また、緊急事態宣言解除後も度重なる同感染症拡大の波による全国的な移動自粛傾向の影響から、過去に類を見ない観光客数の減少が生じた。

令和2年における長崎市の年間観光客数は、前年比約63.0%減(約435万人減)の約256万人となっており、特に上記緊急事態宣言下における5月については、本市所有の主要な観光施設が閉鎖されていた影響もあり、前年比約97.4%減(約60万人)の約1万6,000人となった。

また、全国屈指のクルーズ船寄港地である本市においては、当該感染症拡大に伴うクルーズ船運休の影響が顕著であり、国内クルーズ船の入港は皆減するとともに国際クルーズ船の入港は前年比約93.8%減(約68万人減)となった。

##### ■ 相次ぐ自然災害の発生

令和2年9月上旬に発生した台風9号および10号の九州北部への接近により、端島(軍艦島)の見学施設等に一部被害が生じたことから、端島見学施設の上陸を一定期間停止した。

#### 【その他の要因】

##### ■ 国、県および市の宿泊割引キャンペーンの実施

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、失われた旅行需要の喚起を図るため、感染症拡大が一定収まった令和2年6月から、長崎県が県民を対象とした「ふるさと再発見の旅～宿泊施設応援キャンペーン～」や全国を対象とした「ながさき癒し旅“ウェルカムキャンペーン”」を実施し、続いて長崎市も独自の施策として、県民を対象とした「お得に泊まって長崎市観光キャンペーン」を実施し、域内外の需要に対し宿泊助成による地域経済の活性化を図った。

また、令和2年7月からは国の「Go To トラベルキャンペーン」が開始され、当初は期待していたほどの効果が見られなかったが、同年10月から東京都発着の旅行が対象となり、地域共通クーポンの発行も始まることで、全国的な観光客の動きが徐々に広がった。

長崎県および長崎市の施策が開始された6月の観光客数は前年比約86.0%減(約6万3千人)、「Go To トラベルキャンペーン」が開始された7月の観光客数は前年比約72.4%減(約16万人)、また、長崎市の「第二弾お得に泊まって長崎市観光キャンペーン」の開始と「Go To トラベルキャンペーン」に東京都が追加された10月の観光客数は前年比約51.9%減(約33万人)、11月の観光客数は前年比約35.7%減(約43万人)と前年比最低月の5月から漸次回復傾向となった。

2 観光統計総括表

【単位：人、億円、％】

		令和元年	令和2年	構成比	前年比増減
観光客数		6,917,800	2,560,600	100.0	▲63.0
宿泊の有無別	宿泊客数	2,705,200	1,160,000	45.3	▲57.1
	日帰り客数	4,212,600	1,400,600	54.7	▲66.8
旅行形態別	個人客数	6,191,200	2,210,500	86.3	▲64.3
	団体客数	726,600	350,100	13.7	▲51.8
	一般	457,200	224,500	8.8	▲50.9
	学生	269,400	125,600	4.9	▲53.4
交通機関別	J R	1,323,300	536,300	21.0	▲59.5
	自動車	3,926,200	1,595,200	62.3	▲59.4
	船舶	897,700	113,500	4.4	▲87.4
	航空機	770,600	315,600	12.3	▲59.0
観光消費額		1,492	611		▲59.1
経済波及効果		2,117	890		▲1,227



### 3 観光客数・観光消費額の推移

【単位：人、千円、％】

年	観光客数	前年比増減		観光消費額	前年比増減	
平成18年	5,699,300	305,800	5.7	77,721,719	5,571,511	7.7
平成19年	5,640,900	▲ 58,400	▲ 1.0	77,422,055	▲ 299,664	▲ 0.4
平成20年	5,559,500	▲ 81,400	▲ 1.4	75,890,453	▲ 1,531,602	▲ 2.0
平成21年	5,585,600	26,100	0.5	75,101,615	▲ 788,838	▲ 1.0
平成22年	6,108,300	522,700	9.4	110,880,935	35,779,320	47.6
平成23年	5,944,700	▲163,600	▲ 2.7	109,766,697	▲ 1,114,238	▲ 1.0
平成24年	5,952,900	8,200	0.1	115,446,919	5,680,222	5.2
平成25年	6,078,000	125,100	2.1	120,320,106	4,873,187	4.2
平成26年	6,306,800	228,800	3.8	124,323,000	4,002,894	3.3
平成27年	6,693,800	387,000	6.1	136,834,458	12,511,458	10.1
平成28年	6,723,500	29,700	0.4	131,378,500	▲5,455,958	▲ 4.0
平成29年	7,077,700	354,200	5.3	145,846,150	14,467,650	11.0
平成30年	7,055,400	▲ 22,300	▲ 0.3	149,689,454	3,843,304	2.6
令和元年	6,917,800	▲137,600	▲ 2.0	149,189,702	▲ 499,752	▲ 0.3
令和2年	2,560,600	▲4,357,200	▲63.0	61,066,048	▲88,123,654	▲59.1

※ 観光消費額は、平成22年から次のとおり基礎数値を見直して算定している。  
 (旧)平成12年度の一泊宿泊時の平均消費額 (新)連泊を考慮した宿泊客全体の平均消費額

図1 観光客数・観光消費額の推移

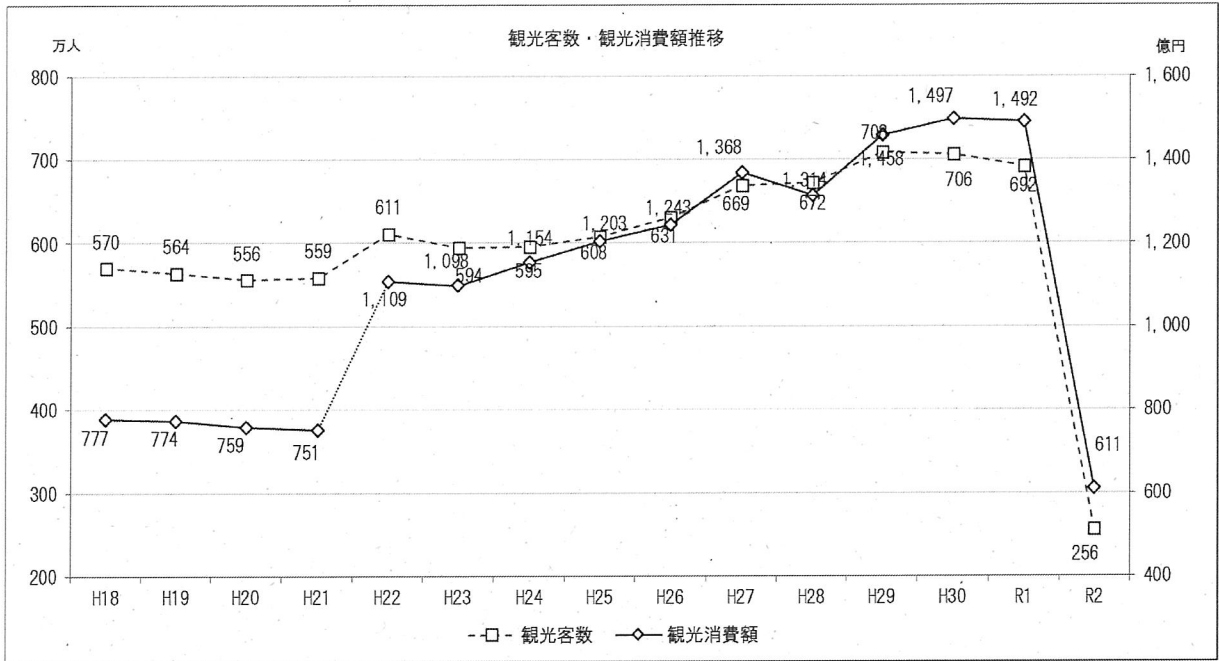
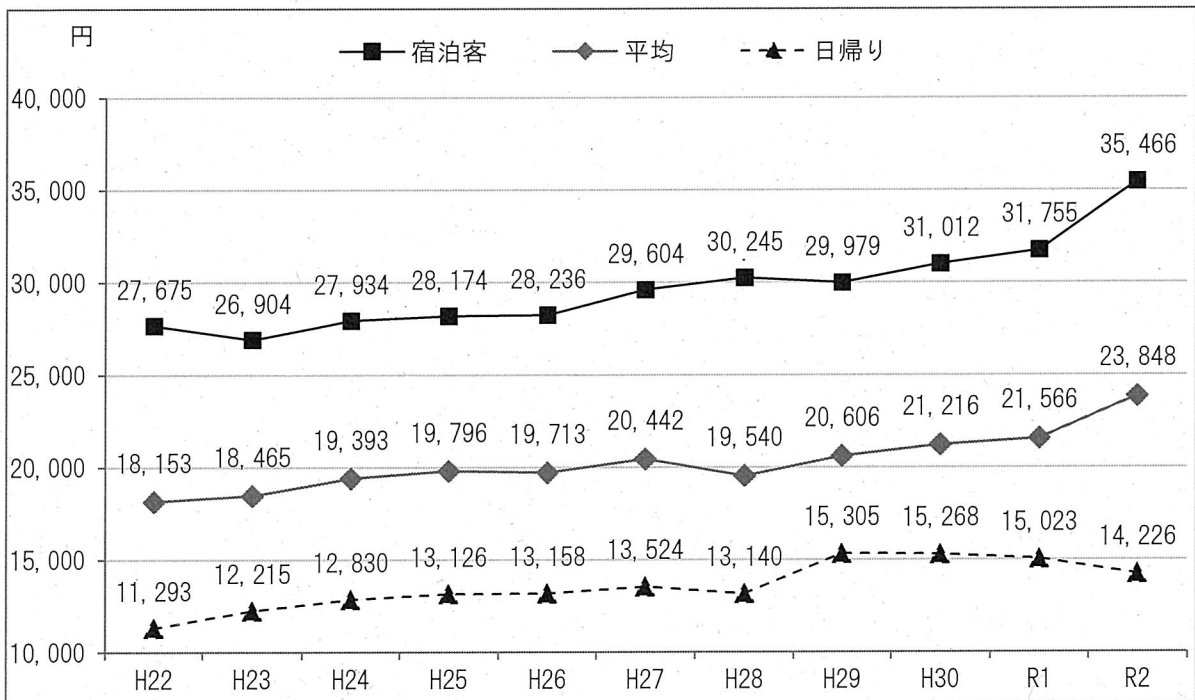


図2 平均観光消費単価の推移

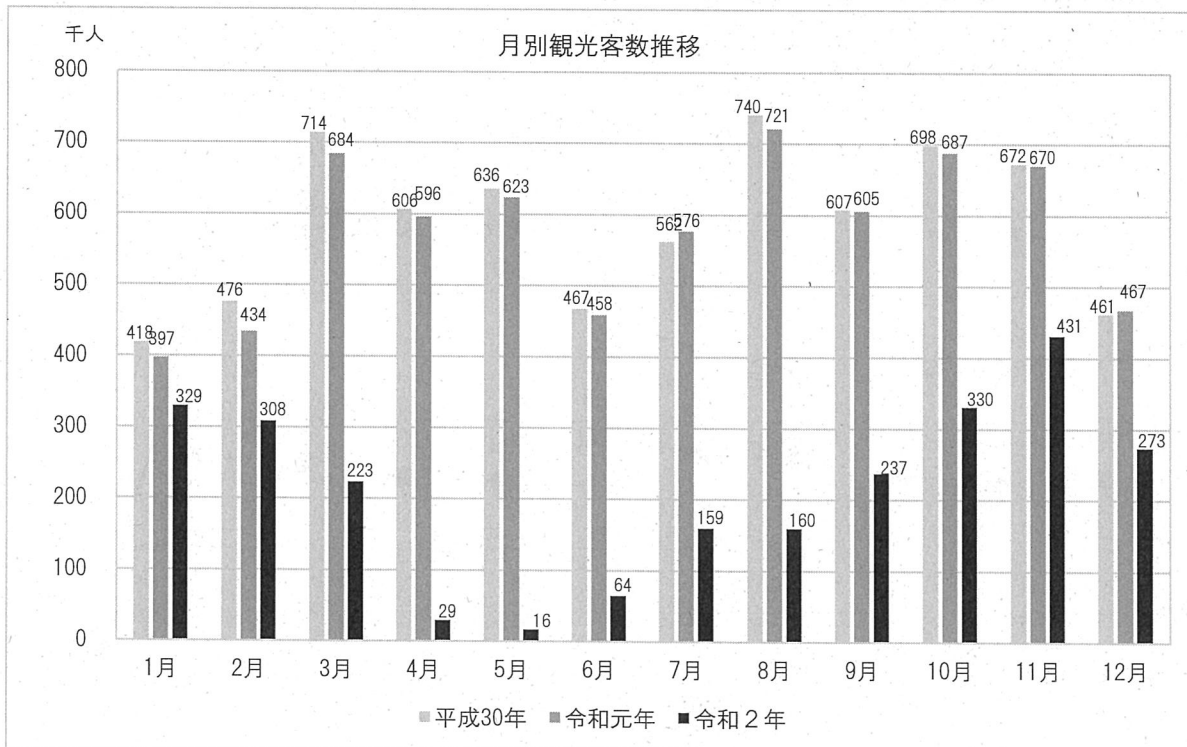


#### 4 月別観光客数

【単位：人、％】

月	平成30年	令和元年	令和2年	構成比	
				構成比	前年比増減
1月	418,300	397,200	329,300	12.9	▲17.1
2月	476,000	433,900	308,400	12.1	▲28.9
3月	713,700	683,700	223,300	8.7	▲67.3
4月	605,900	595,500	29,000	1.1	▲95.1
5月	635,600	623,200	16,400	0.6	▲97.4
6月	467,000	458,400	64,300	2.5	▲86.0
7月	561,500	576,300	159,300	6.2	▲72.4
8月	740,000	720,500	159,600	6.2	▲77.8
9月	606,500	604,800	236,800	9.2	▲60.8
10月	697,500	687,400	330,400	12.9	▲51.9
11月	672,000	669,600	430,500	16.9	▲35.7
12月	461,400	467,300	273,300	10.7	▲41.5
計	7,055,400	6,917,800	2,560,600	100.0	▲63.0

図3 月別観光客数の推移

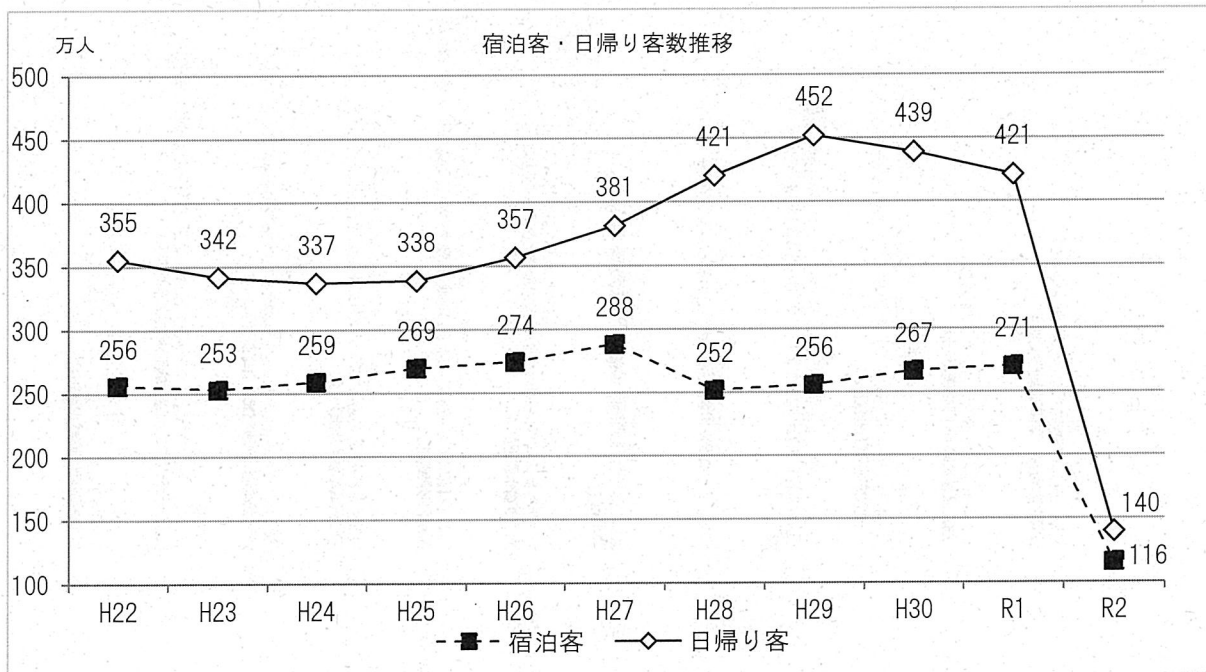


5 宿泊客・日帰り客の推移

【単位：人、％】

年	宿泊客			日帰り客		
	人数	構成比	前年比増減	人数	構成比	前年比増減
平成18年	2,533,600	44.5	9.6	3,165,700	55.5	2.7
平成19年	2,521,500	44.7	▲0.5	3,119,400	55.3	▲1.5
平成20年	2,460,100	44.3	▲2.4	3,099,400	55.7	▲0.6
平成21年	2,401,700	43.0	▲2.4	3,183,900	57.0	2.7
平成22年	2,557,700	41.9	6.5	3,550,600	58.1	11.5
平成23年	2,529,300	42.5	▲1.1	3,415,400	57.5	▲3.8
平成24年	2,586,800	43.5	2.3	3,366,100	56.5	▲1.4
平成25年	2,694,100	44.3	4.1	3,383,900	55.7	0.5
平成26年	2,741,500	43.5	1.8	3,565,300	56.5	5.4
平成27年	2,879,800	43.0	5.0	3,814,000	57.0	7.0
平成28年	2,515,700	37.4	▲12.6	4,207,800	62.6	10.3
平成29年	2,556,900	36.1	1.6	4,520,800	63.9	7.4
平成30年	2,665,600	37.8	4.3	4,389,800	62.2	▲2.9
令和元年	2,705,200	39.1	1.5	4,212,600	60.9	▲4.0
令和2年	1,160,000	45.3	▲57.1	1,400,600	54.7	▲66.8

図4 宿泊客・日帰り客の推移

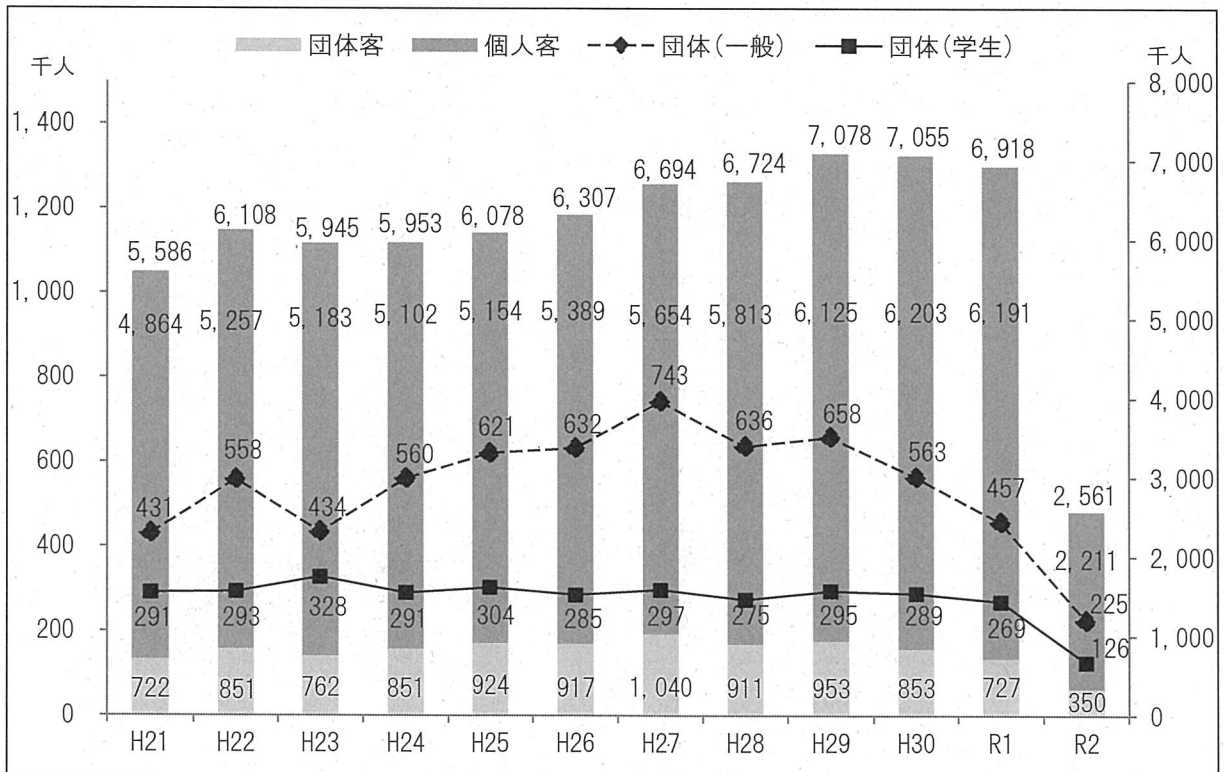


6 個人客・団体客の推移

【単位：人、％】

年	個人客		団体客		一般		学生	
	人数	前年比増減	人数	前年比増減	人数	前年比増減	人数	前年比増減
平成18年	4,889,300	5.7	810,000	5.3	533,000	10.9	277,000	▲4.1
平成19年	4,839,000	▲1.0	801,900	▲1.0	535,500	0.5	266,400	▲3.8
平成20年	4,779,800	▲1.2	779,700	▲2.8	508,000	▲5.1	271,700	2.0
平成21年	4,863,800	1.8	721,800	▲7.4	430,500	▲15.3	291,300	7.2
平成22年	5,256,900	8.1	851,400	18.0	558,300	29.7	293,100	0.6
平成23年	5,182,900	▲1.4	761,800	▲10.5	434,000	▲22.3	327,800	11.8
平成24年	5,102,100	▲1.6	850,800	11.7	560,300	29.1	290,500	▲11.4
平成25年	5,154,000	1.0	924,000	8.6	620,500	10.7	303,500	4.5
平成26年	5,389,400	4.6	917,400	▲0.7	632,200	1.9	285,200	▲6.0
平成27年	5,653,900	4.9	1,039,900	13.4	742,600	17.5	297,300	4.2
平成28年	5,812,600	2.8	910,900	▲12.4	636,300	▲14.3	274,600	▲7.6
平成29年	6,124,800	5.4	952,900	4.6	658,100	3.4	294,800	7.4
平成30年	6,202,900	1.3	852,500	▲10.5	563,300	▲14.4	289,200	▲1.9
令和元年	6,191,200	▲0.2	726,600	▲14.8	457,200	▲18.8	269,400	▲6.8
令和2年	2,210,500	▲64.3	350,100	▲51.8	224,500	▲50.9	125,600	▲53.4

図5 個人客・団体客の推移

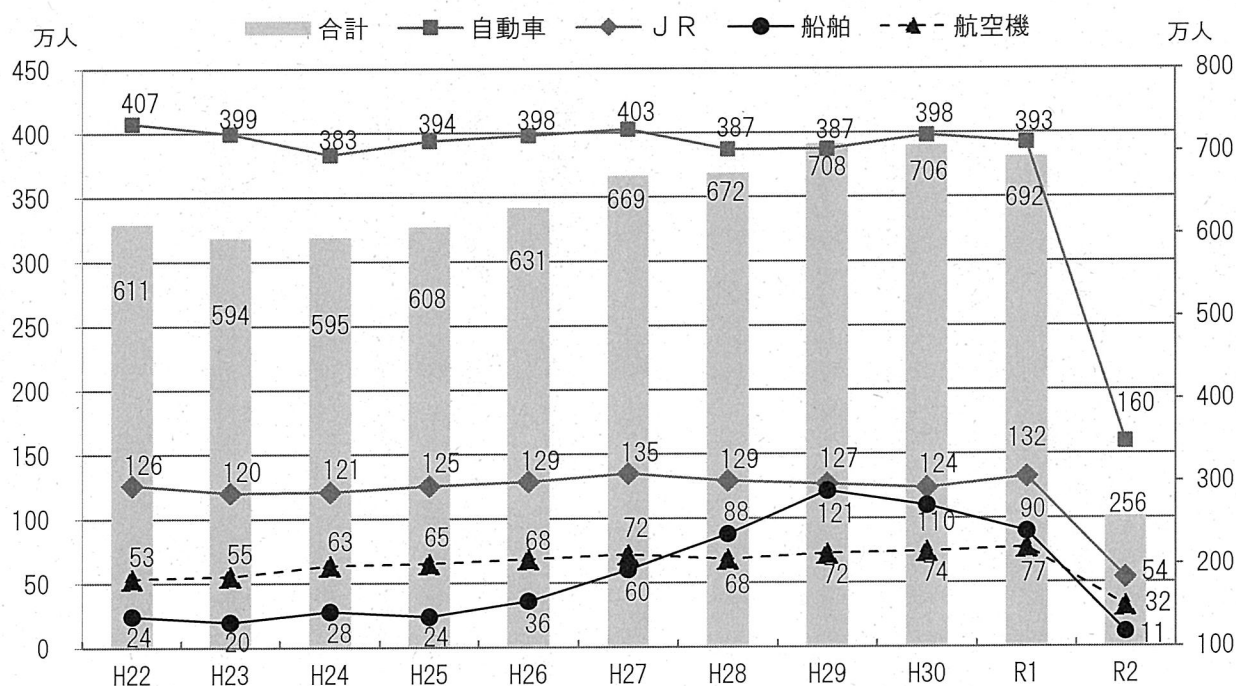


## 7 交通機関別観光客数の推移

【単位：人、％】

年	J R		自動車		船舶		航空機	
	観光客数	前年比増減	観光客数	前年比増減	観光客数	前年比増減	観光客数	前年比増減
平成18年	1,297,500	0.2	3,530,100	8.3	239,200	5.9	632,500	2.9
平成19年	1,260,200	▲2.9	3,566,000	1.0	219,400	▲8.3	595,300	▲5.9
平成20年	1,262,500	0.2	3,533,800	▲0.9	191,400	▲12.8	571,800	▲3.9
平成21年	1,191,600	▲5.6	3,639,000	3.0	222,100	16.0	532,900	▲6.8
平成22年	1,260,400	5.8	4,074,700	12.0	242,200	9.0	531,000	▲0.4
平成23年	1,201,900	▲4.6	3,994,900	▲2.0	198,300	▲18.1	549,600	3.5
平成24年	1,207,900	0.5	3,832,000	▲4.1	278,300	40.3	634,700	15.5
平成25年	1,253,900	3.8	3,938,700	2.8	236,500	▲15.0	648,900	2.2
平成26年	1,285,800	2.5	3,979,300	1.0	358,500	51.6	683,200	5.3
平成27年	1,347,700	4.8	4,028,300	1.2	600,600	67.5	717,200	5.0
平成28年	1,291,700	▲4.2	3,870,900	▲3.9	879,200	46.4	681,700	▲4.9
平成29年	1,266,400	▲2.0	3,872,800	0.1	1,213,600	38.0	724,900	6.3
平成30年	1,236,000	▲2.4	3,979,400	2.8	1,098,200	▲9.5	741,800	2.3
令和元年	1,323,300	7.0	3,926,200	▲1.3	897,700	▲18.3	770,600	3.9
令和2年	536,300	▲59.5	1,595,200	▲59.4	113,500	▲87.4	315,600	▲59.0

図6 交通機関別観光客数の推移



8 クルーズ客船入港隻数及び乗客・乗務員数

(1) 国内・国際クルーズ客船入港隻数及び乗客・乗務員数

【単位：隻、人、％】

	平成30年		令和元年		令和2年		
	隻数	推計	隻数	推計	隻数	推計	前年比増減
計	220隻	936,046	183隻	732,538	10隻	45,349	▲93.8

(2) 国内クルーズ客船入港隻数及び乗客・乗務員数

【単位：隻、人、％】

	平成30年		令和元年		令和2年		
	隻数	推計	隻数	推計	隻数	推計	前年比増減
計	4隻	2,748	4隻	3,272	0隻	0	▲100.0

(3) 国際クルーズ客船入港隻数及び乗客・乗務員数

① 乗客数

【単位：人、％】

順位	平成30年		令和元年		令和2年		
	国・地域	推計	国・地域	推計	国・地域	推計	構成比
1	中国	627,789	中国	460,104	中国	34,331	98.0
2	台湾	11,756	台湾	18,094	日本	253	0.7
3	アメリカ	10,082	日本	17,116	モンゴル	82	0.3
4	日本	9,186	アメリカ	14,997	アメリカ	71	0.2
5	オーストラリア	8,646	オーストラリア	8,598	台湾	41	0.1
-	その他	30,075	その他	28,674	その他	236	0.7
計	-	697,534	-	547,583	-	35,014	100.0

② 乗務員数

【単位：人、％】

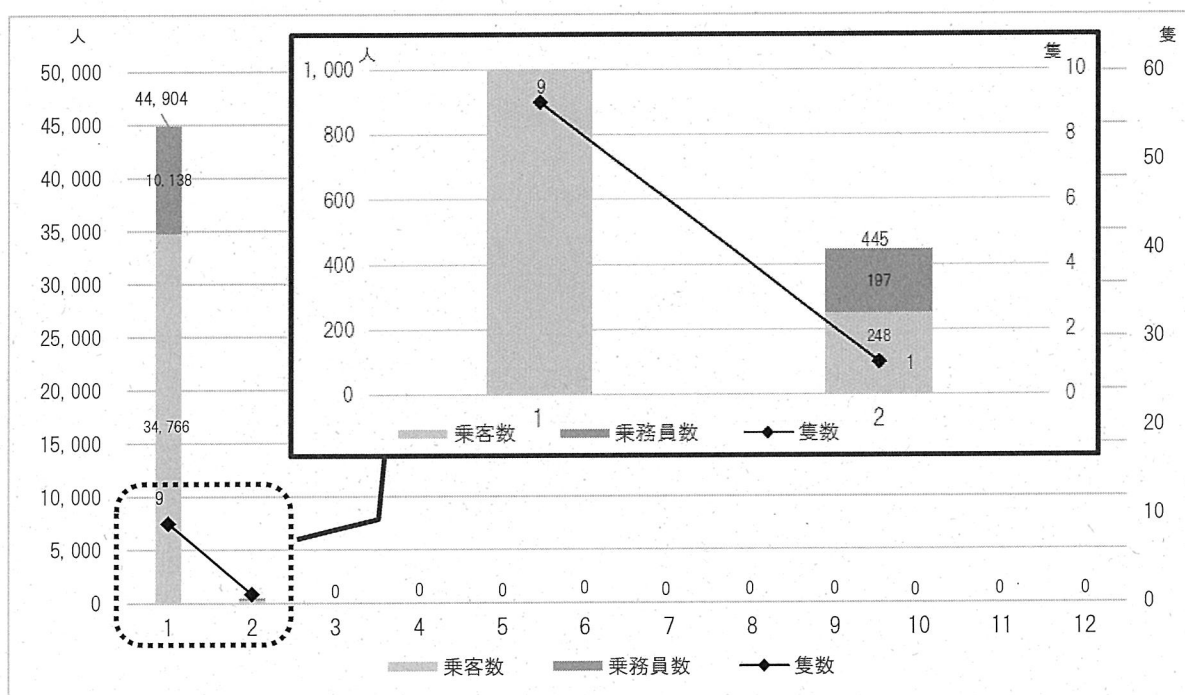
	平成 30 年		令和元年		令和 2 年		
	国・地域	推 計	国・地域	推 計	国・地域	推 計	前年比増減
計	-	235,764	-	181,683	-	10,335	▲94.3

③ 乗客・乗務員数(①+②)

【単位：隻、人、％】

	平成 30 年		令和元年		令和 2 年		
	隻 数	推 計	隻 数	推 計	隻 数	推 計	前年比増減
計	216 隻	933,298	179 隻	729,266	10 隻	45,349	▲93.7

図7 月別クルーズ客船入港隻数及び乗客・乗務員数



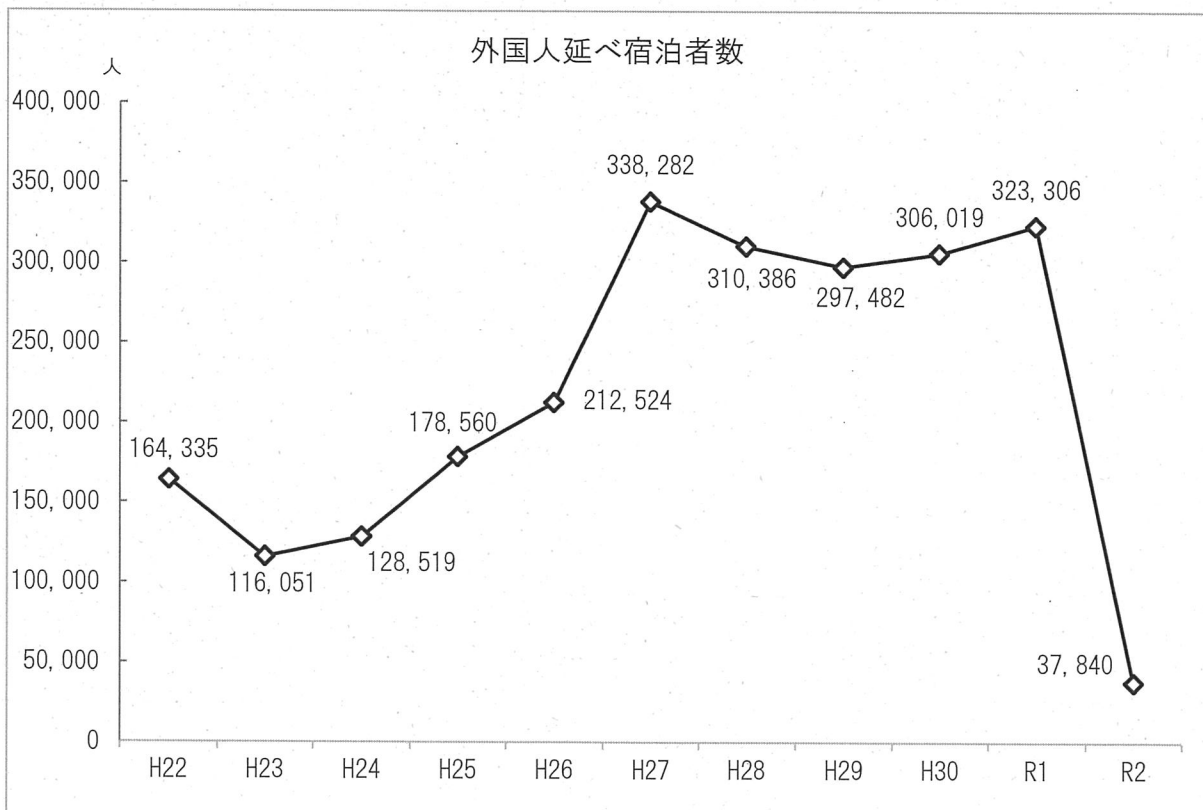


9 外国人延べ宿泊者数の推移

【単位：人泊、％】

年	外国人延べ宿泊者数	前年比増減
平成18年	136,606	22.2
平成19年	166,750	22.1
平成20年	167,294	0.3
平成21年	163,395	▲ 2.3
平成22年	164,335	0.6
平成23年	116,051	▲29.4
平成24年	128,519	10.7
平成25年	178,560	38.9
平成26年	212,524	19.0
平成27年	338,282	59.2
平成28年	310,386	▲ 8.2
平成29年	297,482	▲ 4.2
平成30年	306,019	2.9
令和元年	323,306	5.6
令和2年	37,840	▲88.3

図8 外国人延べ宿泊者数の推移



## 10 国・地域別外国人延べ宿泊者数

【単位：人泊、％】

順位	平成30年		令和元年		令和2年			
	国・地域	推計	国・地域	推計	国・地域	推計	構成比	前年比増減
1	韓国	98,875	韓国	58,454	中国	6,682	17.7	▲88.1
2	中国	51,228	中国	56,029	韓国	4,917	13.0	▲91.6
3	台湾	36,814	香港	38,667	香港	4,121	10.9	▲89.3
4	アメリカ	16,494	台湾	37,730	台湾	3,981	10.5	▲89.4
5	香港	13,312	アメリカ	13,837	アメリカ	3,255	8.6	▲76.5
6	シンガポール	8,354	タイ	8,697	インドネシア	958	2.5	▲54.4
7	ドイツ	7,559	オーストラリア	8,083	フィリピン	905	2.4	▲81.5
8	タイ	6,396	イギリス	7,565	イギリス	800	2.1	▲89.4
9	オーストラリア	6,212	シンガポール	7,307	オーストラリア	794	2.1	▲90.2
10	イギリス	4,927	マレーシア	7,177	マレーシア	739	2.0	▲89.7
11	フィリピン	4,560	ドイツ	6,983	ドイツ	635	1.7	▲90.9
12	フランス	4,437	フィリピン	4,882	シンガポール	584	1.5	▲92.0
13	カナダ	2,571	フランス	4,623	タイ	557	1.5	▲93.6
14	オランダ	2,540	カナダ	3,136	ベトナム	530	1.4	▲34.4
15	マレーシア	2,418	インドネシア	2,101	フランス	456	1.2	▲90.1
-	その他	39,322	その他	58,035	その他	7,926	20.9	▲86.3
計		306,019		323,306		37,840	100.0	▲88.3



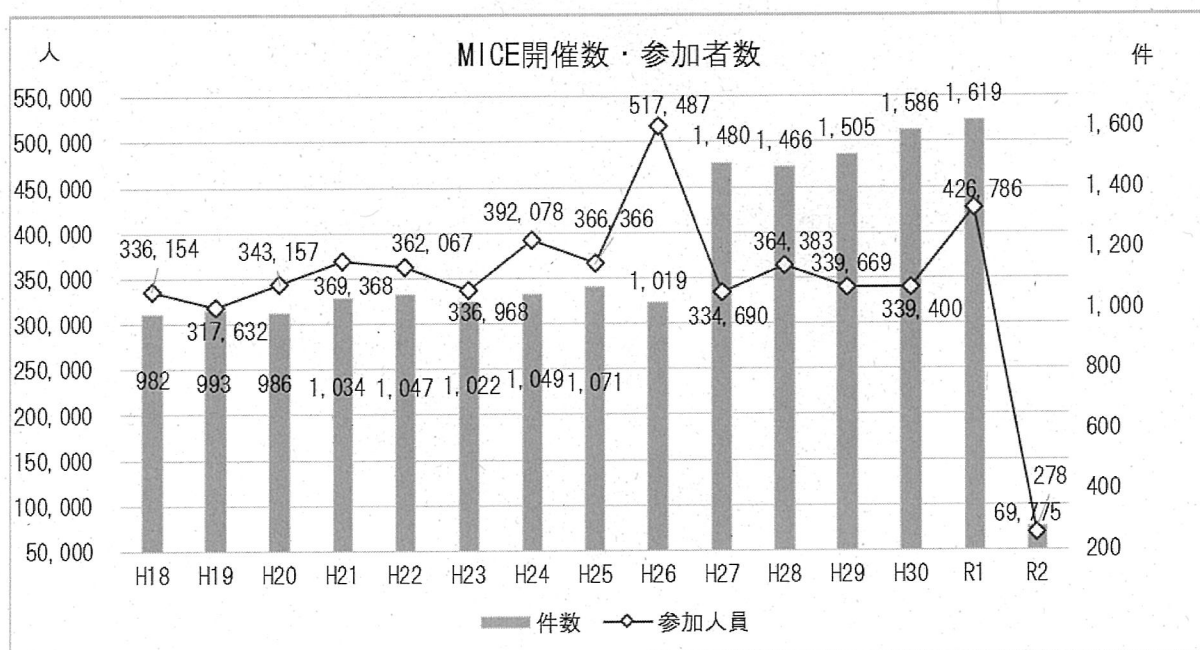
# 11 MICE統計

## (1) 長崎県内以上の大会・会議の開催件数及び参加人員

【単位：件、人】

年	件数	参加人員	
		文化・学術コンベンション等	スポーツコンベンション
平成18年	982	—	—
平成19年	993	—	—
平成20年	986	—	—
平成21年	1,034	—	—
平成22年	1,047	—	—
平成23年	1,022	—	—
平成24年	1,049	745	304
平成25年	1,071	768	303
平成26年	1,019	797	222
平成27年	1,480	1,246	234
平成28年	1,466	1,217	249
平成29年	1,505	1,214	291
平成30年	1,586	1,323	263
令和元年	1,619	1,313	306
令和2年	278	214	64

図10 長崎県内以上の大会・会議の開催件数及び参加人員の推移



## (2) 規模別の開催件数

## ① 文化・学術コンベンション等

【単位：件、人、％】

規模	件数				参加人員			
	令和元年	令和2年	構成比	前年比増減	令和元年	令和2年	構成比	前年比増減
100人未満	684	118	55.2	▲82.7	36,405	6,333	17.1	▲82.6
100人以上～ 300人未満	458	77	36.0	▲83.2	68,835	10,921	29.6	▲84.1
300人以上～ 500人未満	101	13	6.1	▲87.1	34,892	4,670	12.6	▲86.6
500人以上～ 1,000人未満	39	2	0.9	▲94.9	24,539	1,400	3.8	▲94.3
1,000人以上～ 2,000人未満	21	2	0.9	▲90.5	26,816	2,600	7.0	▲90.3
2,000人以上	10	2	0.9	▲80.0	64,640	11,032	29.9	▲82.9
計	1,313	214	100.0	▲83.7	256,127	36,956	100.0	▲85.6

## ② スポーツコンベンション

【単位：件、人、％】

規模	件数				参加人員			
	令和元年	令和2年	構成比	前年比増減	令和元年	令和2年	構成比	前年比増減
100人未満	43	6	9.4	▲86.0	2,306	426	1.3	▲81.5
100人以上～ 300人未満	112	26	40.6	▲76.8	19,465	4,376	13.3	▲77.5
300人以上～ 500人未満	49	12	18.8	▲75.5	17,393	4,091	12.5	▲76.5
500人以上～ 1,000人未満	59	10	15.6	▲83.1	36,788	6,511	19.8	▲82.3
1,000人以上～ 2,000人未満	32	7	10.9	▲78.1	39,635	7,665	23.4	▲80.7
2,000人以上	11	3	4.7	▲72.7	55,072	9,750	29.7	▲82.3
計	306	64	100.0	▲79.1	170,659	32,819	100.0	▲80.8

## (3) 大会規模別の開催件数

## ① 文化・学術コンベンション等

【単位：件、人、％】

規模	件数				参加人員			
	令和元年	令和2年	構成比	前年比増減	令和元年	令和2年	構成比	前年比増減
県内大会	1,008	183	85.5	▲81.8	147,770	24,923	67.4	▲83.1
九州大会	139	16	7.5	▲88.5	22,917	2,774	7.5	▲87.9
西日本大会	15	2	0.9	▲86.7	1,781	400	1.1	▲77.5
全国大会	130	13	6.1	▲90.0	40,463	8,859	24.0	▲78.1
国際大会	21	0	0.0	▲100.0	43,196	0	0.0	▲100.0
計	1,313	214	100.0	▲83.7	256,127	36,956	100.0	▲85.6

## ② スポーツコンベンション

【単位：件、人、％】

規模	件数				参加人員			
	令和元年	令和2年	構成比	前年比増減	令和元年	令和2年	構成比	前年比増減
県内大会	216	56	87.5	▲74.1	103,774	26,269	80.1	▲74.7
九州大会	61	6	9.4	▲90.2	24,674	5,950	18.1	▲75.9
西日本大会	3	0	0.0	▲100.0	1,800	0	0.0	▲100.0
全国大会	26	2	3.1	▲92.3	40,411	600	1.8	▲98.5
国際大会	0	0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0
計	306	64	100.0	▲79.1	170,659	32,819	100.0	▲80.8

## (4) 月別の開催件数及び参加人員

【単位：件、人、％】

月	件数			参加人員		
	令和元年	令和2年	構成比	令和元年	令和2年	構成比
1月	114	101	36.3	16,885	27,055	38.8
2月	135	39	14.0	26,450	7,155	10.2
3月	110	9	3.2	34,874	623	0.9
4月	74	2	0.7	39,538	110	0.2
5月	53	5	1.8	13,221	326	0.5
6月	177	10	3.6	39,169	1,482	2.1
7月	169	22	7.9	41,018	2,737	3.9
8月	148	19	6.9	45,757	4,181	6.0
9月	115	15	5.4	32,900	2,830	4.0
10月	168	18	6.5	35,973	11,387	16.3
11月	244	30	10.8	76,897	10,089	14.5
12月	112	8	2.9	24,104	1,800	2.6
計	1,619	278	100.0	426,786	69,775	100.0

## 12 経済波及効果

直接効果から間接2次波及効果までを合計した総合効果 890 億円が、「令和2年に長崎市を訪れた観光客」の経済波及効果であり、長崎市を中心とした長崎県内に対して、直接効果（＝県内最終需要）534 億円の約 1.67 倍の経済波及効果を及ぼすものと推測できる。

雇用効果をみると、就業誘発効果は全体で 10,374 人と推計され、産業部門別で効果が大きいの「飲食・娯楽サービス(4,897 人)」、「宿泊業(1,667 人)」、「商業(1,599 人)」である。

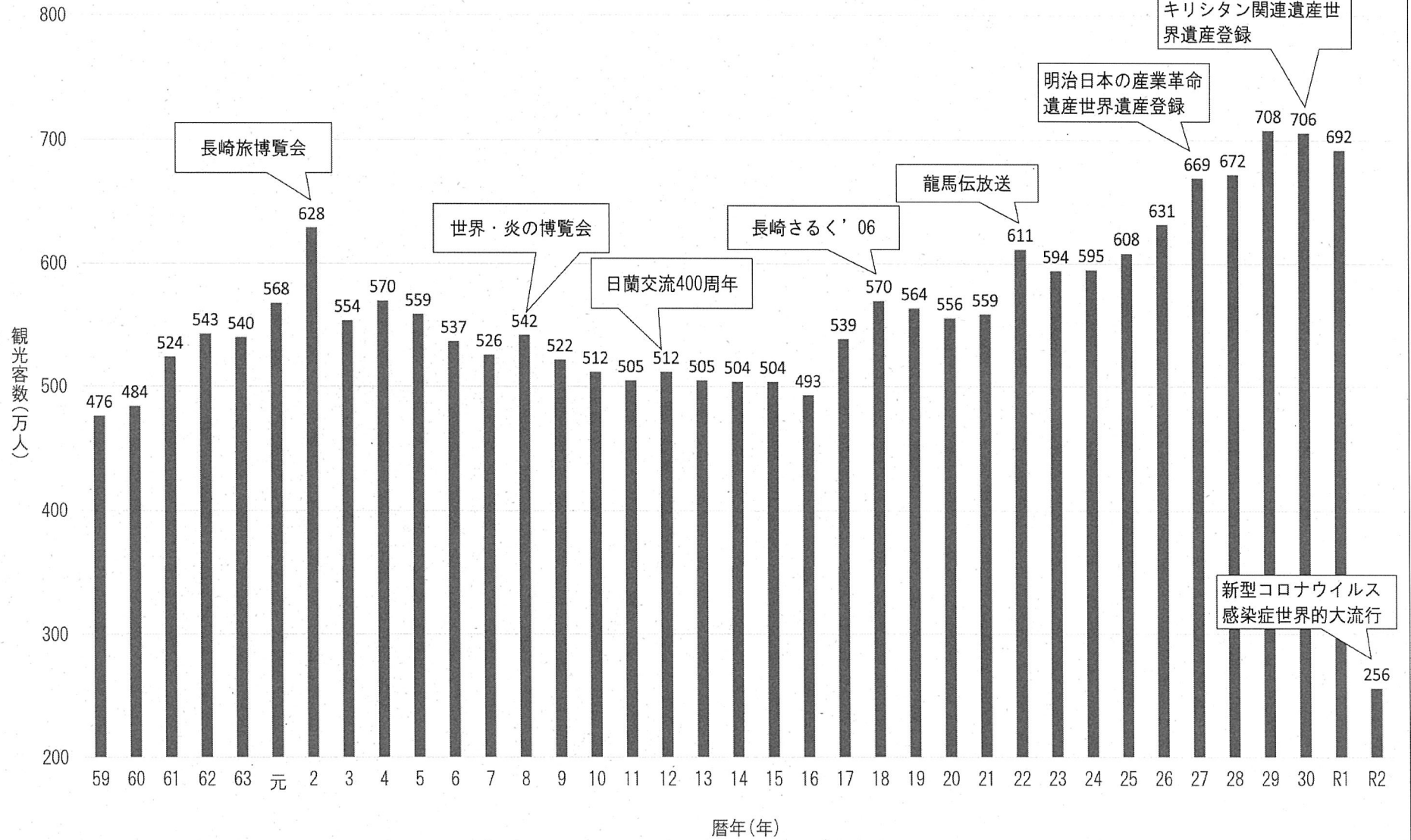
【単位：億円、人、％】

項目	令和元年	令和2年	前年比増減
総合効果 (①+②)	2,117	890	▲ 58.0
直接効果…①	1,268	534	▲ 57.9
飲食・娯楽サービス	754	311	▲ 58.8
宿泊業	299	149	▲ 50.2
商業ほか	215	74	▲ 65.6
波及効果…②	849	356	▲ 58.1
間接1次波及効果	538	230	▲ 57.2
間接2次波及効果	311	126	▲ 59.5
就業誘発効果(就業者誘発数)	24,186	10,374	▲ 57.1



# 参 考 资 料

# 1 観光客数の推移



## 2 主要観光施設の入場者数

【単位：人、％】

施設名	平成30年	令和元年	令和2年	前年比増減
グラバー園	968,497	852,826	324,330	▲62.0
出島	543,981	500,811	213,732	▲57.3
原爆資料館	673,617	737,772	282,775	▲61.7
合計	2,186,095	2,091,409	820,837	▲60.8

※ 入場者数には無料入場者も含む。

## 3 主要イベントの集客数及び経済波及効果

### (1) 集客数

【単位：人、％】

イベント名	平成30年	令和元年	令和2年	前年比増減
長崎ランタンフェスティバル	1,060,000	980,000	560,000	▲42.9
長崎帆船まつり	275,000	226,000	中止	▲100.0
合計	1,335,000	1,206,000	560,000	▲53.6

### (2) 経済波及効果

【単位：千円、％】

イベント名	平成30年	令和元年	令和2年	前年比増減
長崎ランタンフェスティバル	10,354,000	9,238,000	5,604,000	▲39.3
長崎帆船まつり	1,045,000	991,000	中止	▲100.0
合計	11,399,000	10,229,000	5,604,000	▲45.2

#### 4 宿泊施設の状況

(1) 種別による部屋数及び収容人員(令和2年4月1日現在)

【単位：軒、室、人】

種別	施設数	室数				収容人員			
		和室	洋室	和洋室	計	和室	洋室	和洋室	計
ホテル	49	146	2,276	108	2,530	827	4,772	578	6,177
旅館	35	556	235	53	844	2,196	561	280	3,037
ビジネスホテル	28	53	2,218	10	2,281	160	3,236	45	3,441
民宿・ ペンション	31	205	55	19	279	430	131	35	596
ユースホステル ・ホステル	12	27	143	12	182	111	263	50	424
公営宿泊施設 ・保養所	10	36	84	10	130	137	494	66	697
計	165	1,023	5,011	212	6,246	3,861	9,457	1,054	14,372

(2) 種別・規模別の宿泊施設数(令和2年4月1日現在)

【単位：軒】

種別	50人未満	50人以上 100人未満	100人以上 200人未満	200人以上 300人未満	300人以上 400人未満	400人以上 500人未満	500人以上	計
ホテル	19	6	6	10	7	0	1	49
旅館	24	4	2	1	1	3	0	35
ビジネスホテル	5	9	5	6	1	1	1	28
民宿・ ペンション	28	3	0	0	0	0	0	31
ユースホステル ・ホステル	9	1	2	0	0	0	0	12
公営宿泊施設 ・保養所	6	1	3	0	0	0	0	10
合計	91	24	18	17	9	4	2	165

## 令和2年長崎市観光統計

長崎市文化観光部観光政策課

〒850-0031

長崎市桜町4-1(長崎商工会館4階)

電話番号 095-829-1152

FAX 番号 095-829-1232

発行：令和3年8月



長 崎 市